

秋田県町村会 海外研修報告

藤里町長 佐々木 文明

No. 1

平成26年度において、秋田県町村会では町村長の海外事情視察を再開すべく、成長著しい東南アジア、取り分けタイ、ベトナム、台湾等の農業事情や輸出入の可能性等について研修し、地域づくりに繋げていくこととして、現地状況を検討しておりましたところ、タイ、ベトナムの政情が不安定な状況になったことから、台湾一本に絞ってその視察先の候補選定をお願いしていました。

その結果、8月19日（火）から24日（日）までの6日間にわたり、県内12町村中11町村長が参加し、「我が国を取り巻く経済、産業、文化等と密接に関連する、諸外国の現状や事例を現地視察すること、それぞれの町村での町づくりに資する」ことを目的とした台湾の各分野5か所における視察研修に参加してきましたので、その概要について報告します。

◇8月19日（火）

午前8時30分に秋田空港集合で、9時

40分の飛行機で羽田に向かい、シャトルバスで国際線ターミナルに移動してから、専用待合室にて結団式を行いました。

午後1時20分発の台北行きに乗り込み、所要時間3時間20分程で到着しました（ここからは、時差があるため、日本時間より1時間遅い現地時間で報告します）。

入国審査を済ませ、バスに乗り込むため空港外へ出ようとしたところ、豪雨が私たちを出迎えてくれました。ガイドさん達が傘を持ってきてくれたものの、バスまでほんの2〜3分の間で服がびしょ濡れになるくらいの強い雨の洗礼を受け、あちこちで雷鳴が轟く中でのホテルへの移動となりました。車中、ガイドの陳宏榮（チン コウエイ）氏から簡単な台湾の紹介を受けました。台湾の人口は230万人で面積は九州と同じくらい、人口は西側に集中していて、都市部、特に台北の中心地では一戸建ての家がほとんどなく、多くがマンションかアパートで生活しているとのこと。それから親日的で歴史的に見ても50年の日本の植民地時代を経験したが、最初台湾に行った日本の先人たちは、農業を主体に生産性向上の指導をしたりして、100%そうでないにしても、大変好意的に受け止められているようであり、80歳を越えた方々はほとんどが日本語を話せるとのこと。陳さん自身は大学を卒業後、日本の奨学金を得て岡山大学に3年間留学したとのこと、歴史、経済、文化、観光はもちろんのこと、近隣諸国との関係についても知識が深く、私にとりましては最後の最後まで有意義な研修となりました。

午後5時頃、グロリアプリンスホテルタイペイに到着し、ここで3泊というところで荷物を整理してシャワーを浴びてから少し余裕があったので、テレビをつけてみたところ、日本語で放送している番組が最低でも3局あることが判明し、とりあえずホテルにいる3日間は退屈しなくてもよいと思いながら、夕食への移動のために午後6時集合のフロントに下りたときは、豪雨はすでに小康状態となり、ほとんど傘が必要ない天候となっていました。

夕食は台湾料理の「欣葉」というレストランでした。ガイドの陳さんの説明では、台湾には大陸から各種の料理が入っていて、どの料理も美味しいとのこと、もちろん日本料理も最高に美味しいとの説明でした。食事が一段落してから、当座の両替をしてもらいました。日本円で2万円をお願いしたところ、台湾ドルで5,680円ということで、1元が3・52円となり、1000円が28・4元とのことでした。



台北市内

◇8月20日（水）
7時に朝食をとりましたが、テレビのニュースが広島市で災害が発生し、連絡が取れない人がいるとの報道を流していました。それでも、天気予報では秋田県はそんなに影響がないようでしたので、8時40分にホテルをバスで出発しました。2日目の研修に向かう途中、ガイドの陳さんが「昨日到着時の豪雨は、1時間に70mmの台湾でも年に2〜3回しかない位の強い雨だった」とのことでした。そして台湾では非常に勢力の強い台風の場合や1時間に90mm以上の降雨の場合は会社が休みになるとのことでした。

最初は、日本の靖国神社にあたる「忠烈祠」を見学しました。ここは午前9時から午後6時までの1時間ごとに衛兵の交替行進があり、始まりから行進が戻ってきて終了するまで、有に30分を要する儀式であり、表の入り口と中の入り口2か所に2名ずつ4名の衛兵が不動のまま交代まで直立不動で観光客の写真撮影にも微動だにせず立っている姿が印象的でした。



忠烈祠